



東地中海地域ニュース

シリア：バッシャール大統領記者会見 (6月3日付ワタン紙、ハヤート紙)

UAE を訪問したバッシャール大統領は、各種メディア代表との記者会見に応じ、中東和平、レバノン関係、アラブ諸国関係、及びイラン関係について発言している。概要以下の通り。

1. シリア・トラック

イスラエルとの交渉にあたって、イスラエルがゴラン高原返還を受け入れることを条件とした。イスラエル首脳との交渉はそれほど重視していない。シリアはイスラエルの個人と交渉しているのではない。交渉の成功は、イスラエル国民の意思並びに国際社会の政治的变化にかかっている。交渉の初期段階で、第3国に仲介、特にイスラエルとの協力関係にある米国が必要となる。シリア・トラックはパレスチナ・トラックと共に進む。シリア・トラックがパレスチナ国民を犠牲にすることはない。

2. パレスチナ問題

(パレスチナ国民和解に向けてドーハ合意のような取り組みがあったかと問われ)パレスチナ情勢はレバノン情勢と異なる。パレスチナ問題には、アラブ首脳会議で確認されたイエメン・イニシアチブが存在する。

3. レバノン関係

(1) 今回の UAE 訪問の第一の目的は、レバノンの国民的合意を支持することであった。シリアはドーハ合意達成を高く評価する。シリアはシリアの安定にも関わるレバノンの安定を強く求めている。

(2) (スレイマン大統領がレバノン国内にシリア大使館開設を求めていることに関し)大使館開設は、元々2005年以降、シリアからの要請でもあった。シリアはセニオラ首相と協力する用意がある。シリアはいかなる人物であろうと、レバノン国民政府と協力する用意がある。

4. アラブ諸国関係

シリアは、エジプトやサウジと問題を抱えているわけではない。過去にはレバノン危機を巡って見解の不一致があったといわれているが、同胞国間に仲介者は必要ない。現在レバノン危機が解決に向かっていることで(それは)明らかである。

5. イラン関係

(GCC はシリア・イラン同盟を懸念していると問われ)シリア・イラン関係はアラブ諸国の利益を犠牲にするものではなく、むしろ前向きなアラブ諸国・イラン関係の構築に資する。イランは地域の一国であり、我々と対話を行う相手である。(イランの核施設が攻撃された場合を問われ)シリアは戦争に加担する意志はない。しかし、近隣国であるイランの被害は相当なものになる。このことは米国にも明確に伝えられている。